

事業計画書

事業名	子育てサロン sorairo
実施場所	原町幼稚園
実施予定期間	※イベントや研修会等の当日だけでなく、準備期間・実績の取りまとめ期間等も含めて記載して下さい。 2023年8月1日～2024年3月31日

◎事業概要

※事業の概要を100～200字で簡潔に記載して下さい（事業の紹介などで使用します）。

- ・土日の保育時間外に、原町幼稚園の施設を利用した子育てサロン。
- ・地域の子育て世帯（とくに0.1.2歳児を育児中の世帯）が孤立することなく、孤独を感じることがなく、より楽しく子育てができるよう親子で楽しめるイベントやママが主体のワークショップ、おしゃべり会を開催する。
- ・「ママ講師」を随時募集し、得意なものがある利用者のママが講師となってイベントを行ってもらう。
- ・「ここに来れば誰かと話せる、つながれる」という安心感とともに、同じ子育て中の親子と親子をつなげる場を提供する。

◎目的

※何を目的として実施する事業であるか（事業を行うきっかけ（地域の問題点や課題、社会背景など）や、課題解決のためにどんなことが必要と考えるか）を記載して下さい。

原地区には子育て支援センターがなく、未就園の乳幼児を持つ親子が気軽に遊べる機会が、『ぴよぴよ』『エンゼルサロン』の月に二回ほどしかない。

その他幼稚園、保育園が主催しているものも近くにあるが、いずれも子ども主体のものであり、子育て中の親同士がコミュニケーションをとるには難しい。

地域SNSピアツアの調査（20代以上の男女1067名に調査）によると、『子育て中に孤立、孤独を感じたことがある』という問に対して、「よく感じる」「時々感じる」と答えた人が全体の約67%にのぼった。

また、『どんな時に孤独や孤立を感じるか』という問では、「子どもと二人きりである時（約61%）」というのが最も多く、次いで「近所に悩みを共有できる友達がいない（約36%）」という結果になっている。

子育ての悩みを気軽に話せるコミュニケーション相手の不足、産休・育休中である、子どもが小さいため外に出にくい・働きにくい等から、子育て世代が社会との接点がなかなか持てないということが問題になっている。

そこで、子育て中の親子を主としたイベントやワークショップを定期的で開催し、同じくらいの年齢の子を持つ親同士が仲良くなれるきっかけ作りをする。

楽しむ場としてだけでなく、悩みを共有し合う、情報交換をし合う、子どもだけでなくママ・パパも友達をつくる場として提供する。

◎実施内容

日 程	実施項目・作業項目
-----	-----------

2023/6 下旬	※イベントや研修会等の行事日程だけでなく、実施内容(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会)、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、事業期間すべてにわたる実施内容を記載して下さい。 運営陣による、今後のスケジュールについて打ち合わせ 企画会議、人員の確保
2023/7 下旬	SNSにて告知開始、参加者募集 第二回目(9月)の内容について企画会議
2023/8 月上旬	チラシ製作、配布、設置(原町幼稚園、地域内の商店、病院等)、 材料準備
2023/8 月下旬	第一回目のサロン開催 ・ごろんアート(お月見バージョン) ・縁日ごっこ ・はじめましてのおしゃべり会 第二回目の告知(チラシ、SNS)、参加者募集 第三回目(10月)の内容について企画会議、材料準備
2023/9 月上旬	チラシ製作、SNS準備
2023/9 月下旬	第二回目のサロン開催 ・ワークショップ(手形・足形アート) ・おしゃべり会 第三回目の告知(チラシ、SNS)、参加者募集 第四回目(11月)の内容について企画会議、材料準備
2023/10 月上旬	チラシ製作、SNS準備
2023/10 月下旬	第三回目のサロン開催 ・ハロウィンパーティー ・運動遊び ・おしゃべり会
2023/11 月上旬	第四回目の告知(チラシ、SNS)、参加者募集 第五回目(12月)の内容について企画会議、材料準備 チラシ製作、SNS準備
2023/11 月下旬	第四回目のサロン開催 ・ワークショップ(リース作り) ・絵本読み聞かせ ・おしゃべり会
2023/12 月上旬	第五回目の告知(チラシ、SNS)、参加者募集 第六回目(1月)の内容について企画会議、材料準備 チラシ製作、SNS準備
2023/12 月下旬	第五回目のサロン開催 ・ごろんアート(クリスマスバージョン&お正月バージョン) ・クリスマスパーティー ・おしゃべり会
2024/1 月上旬	第六回目の告知(チラシ、SNS)、参加者募集 第七回目(2月)の内容について企画会議、材料準備 チラシ製作、SNS準備
2024/1 月下旬	第六回目のサロン開催 ・ごろんアート(バレンタインバージョン) ・おしゃべり会
2024/2 月上旬	第七回目の告知(チラシ、SNS)、参加者募集 第八回目(3月)の内容について企画会議、材料準備 チラシ製作、SNS準備
2024/2 月下旬	第七回目のサロン開催 ・ちらかしあそび ・おしゃべり会
2024/3 月上旬	第八回目の告知(チラシ、SNS)、参加者募集 第九回目(4月)の内容について企画会議、材料準備 チラシ製作、SNS準備

2024/3 下旬	第八回目のサロン開催 ・ワークショップ（ロゼット作り） ・絵本読み聞かせ ・おしゃべり会 第九回目の告知（チラシ、SNS）、参加者募集 第十回目（5月）の内容について企画会議、材料準備
-----------	---

◎事業効果

※事業の実施により、期待される効果を記載して下さい。				
<p>・定期的に開催することによって顔見知りが増え、親しくなる親子も生まれることが考えられる。地域にそのようなママ友ができると、この地域で育児をしたいと思うようになり、地域にも愛着が沸く。</p> <p>・産休中、育休中、出産を機に退職した等、家で育児をしているママが社会とつながりを持つことができる。</p> <p>・子育て中の孤立や孤独は、産後うつや虐待等にもつながりかねない。相談ができる相手、他愛のないことでも気軽に話せる相手が身近にできることで、子育て世帯の孤立、孤独感を解消する。</p>				
成果指標	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="319 770 746 1151"> ※事業効果を客観的に評価できるよう、具体的な数値等を用いて成果指標を設定して下さい。 ・参加人数の増加 ・アンケート結果 </td> <td data-bbox="751 770 895 1151"> 指標の 検証方法 </td> <td data-bbox="900 770 1356 1151"> ※左記指標の検証方法を記載して下さい。 ・参加人数を毎回集計する。 ・参加者にアンケートを実施し、参加前と後で心境に変化があったかヒアリングをする。 （孤独感は解消されているか、これからもこの地域で子育てをしたいと思うか、何をもちってそう感じるのか等） </td> </tr> </table>	※事業効果を客観的に評価できるよう、具体的な数値等を用いて成果指標を設定して下さい。 ・参加人数の増加 ・アンケート結果	指標の 検証方法	※左記指標の検証方法を記載して下さい。 ・参加人数を毎回集計する。 ・参加者にアンケートを実施し、参加前と後で心境に変化があったかヒアリングをする。 （孤独感は解消されているか、これからもこの地域で子育てをしたいと思うか、何をもちってそう感じるのか等）
※事業効果を客観的に評価できるよう、具体的な数値等を用いて成果指標を設定して下さい。 ・参加人数の増加 ・アンケート結果	指標の 検証方法	※左記指標の検証方法を記載して下さい。 ・参加人数を毎回集計する。 ・参加者にアンケートを実施し、参加前と後で心境に変化があったかヒアリングをする。 （孤独感は解消されているか、これからもこの地域で子育てをしたいと思うか、何をもちってそう感じるのか等）		

◎評価の視点に合致していることの説明 ※評価の視点については、募集の手引きを必ず確認して下さい。

公益性 ・ 必要性	<p>※公益性：地域のまちづくりの推進に如何に寄与できるのか、不特定多数の市民の利益にどうつながるのか等について記載して下さい。</p> <p>※必要性：事業を実施する意義や、本ファンドによる助成が有益で質の高い事業展開につながる理由を記載して下さい。</p> <p>・自分の住む地域に赤ちゃんを連れて楽しめる場所が増えることにより、同じ地区の人と仲良くなれる機会が生まれ、今後の関係も築きやすくなる。話し相手ですぐ近くにいるという安心感も生まれる。</p> <p>・子育て中の孤立や孤独は、産後うつ等にもつながりかねない。とくに乳児を育てているママの居場所を一つでも増やしてあげることで、同じ子育て中のママとの出会いの機会も広がる。</p> <p>・育った地域が楽しいと、成長した子どもも「この地域に住み続けたい」「育った地域にまた帰りたい」と思うようになり、地方の少子高齢化を防ぐことに寄与できる。</p> <p>・子育て中のママが企画するものだからこそ、ニーズに合った、地域には今までなかったものが提供できると考える。</p>
地域性	<p>※地域の実状と課題をどう捉え、事業を行うことによってどのように課題を解決するのか、また、地域の特性や地域資源をどのように活かしたか、などについて記載して下さい。</p> <p>・原地区には子育て支援センターがなく、地区センターで実施されるびよびよ、エンゼルサロンも月に二回しかないため、子育てイベントに参加したい場合は、小さい赤ちゃんを連れて車や電車、バスを乗り継いで近隣地区に行かなければならないという現状がある。そこで知り合えたとしても異なる地区の人が多いため、十分な関係性を築きにくいという現状がある。</p> <p>・自分が住んでいる地域に子育て世帯が楽しめる場が増えることによって、同じ地域に同じくらいの子を育てている人とつながりができる。気軽に話せる人、相談し合える友達が身近にできることで、孤独感の解消にもなる。</p> <p>・同じ子育て中の友人ができることにより、これからもこの地域で子育てをし</p>

	<p>ていきたいと思うようになり、地域への愛着が生まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世帯がつながりを持つようになっていくと、子どもが成長していくにつれて自治会や子ども会などの地域活動にも参加意欲が沸き、地域も活性化していく。 ・提供するお茶やお茶菓子を、原地区・沼津市内にある商店のものをできるだけ使用し、地域の良さを再発見してもらう。
先導性	<p>※事業の新規性や独自性など、新たにチャレンジする点、工夫した点などについて記載して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原地区には、市や幼稚園・保育園が行っている子育て支援の催しはあるが、子ども主体のものが多く、子どもに気を取られてしまいがちでママたちがなかなか親しくなりにくい。 <p>本事業では、子どもが楽しめるものはもちろんだが、親同士がコミュニケーションを取りやすく、関係性が築きやすくなるような企画を用意し、サポートする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子で楽しむ手遊びや絵本の読み聞かせだけでなく、親向けのワークショップ、セミナーを企画する。 ・夜泣きや食事、発達等、同じママだからこそ直面した、「悩みの内容に特化したお話し会」を実施し、共有・共感し合える機会を作る。 ・お茶、お茶菓子を用意し、気軽にくつろいでおしゃべりができるような空間にする。 ・本事業のような「ママ友作りの支援に特化した取り組み」をしている団体は原地区にはなく、先導性があると言える。
発展性 ・ 継続性	<p>※発展性：活動の広がりや波及効果がどのくらい見込め、地域の発展・活性化につながるのか記載して下さい。</p> <p>※継続性：本ファンドによる助成終了後も継続的・自立的な活動とするために、事業実施体制や活動資金の確保などどのように取り組んでいくのかについて記載して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者だけでなく、「お手伝いママ」「ママ講師」も随時募集し、一緒にサロンを盛り上げてくれる人も募る。 ・出産や育児を機に仕事を辞めたママや、なかなか仕事復帰ができずにいるママ、趣味活動を地域に広げたいママ達が講師となることで、社会とつながりが持て、地域貢献ができる楽しみが味わえる。 ・今まで利用する側だったママ達のお子さんが成長し、少し手が離れた頃には今度は「ママ講師」としてまた参加してくれることが期待でき、継続性のある事業と言える。
実現性 ・ 妥当性	<p>※実現性：事業目的と事業内容は合致しているか、実現のために事業内容、予算の積算、自己資金の準備、スケジュール等について工夫した点を記載して下さい。</p> <p>※妥当性：各種法令順守、関係者との調整状況、費用に対する事業効果の妥当性について記載して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表者自身の子どもが原町幼稚園に在園中から、園の先生方と「入園前のママたちが関係性を作りやすくするために何かできないか」と話し合っており、原町幼稚園が場所を提供してくれる運びとなった。 ・保育室内だけでなく、園庭、遊具、おもちゃ、機材等も原町幼稚園に使用させてもらえるため、家賃や光熱費等の固定費がかからず、機材等による初期負担も少なく済む。 ・原町幼稚園の保護者会会長を務め、園の未就園児教室にもお手伝いとして参加した。その参加者や園の保護者から、地域の子育て支援に関する情報や要望を直接聞くなど、未就園児を育児中の親の生の声を聴いた。 ・原地区にはない事業のため、市内の他の地区で行っているものと同等の価格設定にしてもニーズは高いものとする。
活動に対する熱意	<p>※活動の動機、活動に対する意欲・熱意について記載して下さい。</p> <p>二年前、幼い子どもたちを連れて東京から移住をしてきた私は、原地区に子育て支援センターがなく、コロナ禍ということもあり親子で参加できるイベント等も行われていなく、大変な孤独感にあった。</p> <p>右も左もわからない土地で知り合いもおらず、まるで社会から取り残されているような喪失感もあり、ようやく仲良くなれたママさんと話すと、その方も同じ移住者で、同じように寂しさを抱えていたことを知った。</p> <p>その後幼稚園や公園で会うママさんたちと話をすると、とくに赤ちゃんを育てているママは「行き場がない」「近所に話し相手がない」と言っており、私だけでなく、この地区に住む多くのママが共通して感じていることがわかった。</p> <p>現在は徐々に日常のイベントが戻りつつあるが、ママたちが気軽に話せ、コ</p>

コミュニケーションが取れる場所は原地区にはまだまだ少ない。
原町幼稚園の先生方や保護者から、「コロナ禍もあり、ママたちがコミュニケーションの取り方がわからなくなっているようだ」「現行の子ども主体のイベントばかりでは、ママたちの関係性が築きにくい」といった声もあった。
実際に三人の子どもを育児中の私も、原地区内にはママ同士が気軽におしゃべりし合える場がなく、とくに未就園児の親となると、ママ友を作るには難しさを感じ、社会との断絶さえ感じる。
私が体感したあの孤独を、他のママには感じてもらいたくない。自分の経験を生かし、子育て中の親子の友達作りの場を提供することによって、子育て世帯の孤立をなくしていきたい。

◎次年度以降の活動予定

※ソフト部門（ステップアップ型）新規または2回目の応募で、助成の継続（最大3年まで）を希望する場合は、今後の活動予定と事業継続のための戦略について記載して下さい（今回の応募が次年度以降の助成を約束するものではありません）。

- ・参加人数が一定数把握できるようになったら、企画のバリエーションを増やしていく。
- ・パパも参加型の企画をし、家族みんなで参加しても楽しめる場を提供する。
- ・参加者が増えてくるに伴い、平日でも行えるような場所を確保する。
- ・この年度で地域の人にも活動を知ってもらい、それを実績として近隣企業に子育て協賛を募る。
- ・地域に定着させて年会費等の価格設定をし、会費収入を狙う。

◎実績の評価と改善点（継続事業のみ）

※継続事業については、過去の実績に対する自己評価と実績を踏まえた改善点等について記載して下さい。

◎特に高い公益性を有することの説明（ハード部門のみ）

※補助金申請額が「特に公益性が高い事業」に該当する場合は、その理由を記載して下さい。